福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	経営学	
科目基礎情報						
科目番号	0081		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	特定の教科書は使用しない。					
担当教員	若林 晃央					
到達目標						
経営学の基礎知識を身に付けると共に、身近な社会現象に対して深く考える習慣を身に付け、さらに理論を応用して現象を分析する能力を身に付けて欲しい。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1						
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	組織の経営という行為が、これまでどのように考えられ、発展してきたのかについて、基礎的な知識を学ぶ。					
授業の進め方・方法	この科目は学修単位科目のため、授業時間外の学習として、レポートを課す。 中間試験は実施しない。 期末試験は50分の試験を実施する。 レポート40%、定期試験60%で評価し、60点以上を合格とする。					
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		
☐ 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標		
		1週	組織とは何か?	集団と組織		
		2週	文化人類学における組織と経営	恒常的な組織の成立と発展		
		3週	アメリカ経営学の構造	産業構造の変化、アメリカ型経営と日本型経営		
		4週	日本の経営学の構造	商学と経営学		
		5週	学際的学問としての経営学	社会学と経済学との関係		
		6週	社会学における組織と経営①	支配の類型、近代的官僚制の特徴		
		7週	社会学における組織と経営②	家産制的官僚制と近代的官僚制、近代的官僚制成立の要件		
	2ndQ	8週	経営学説史①	古典的組織論から動機付け理論まで		
		9週	経営学説史②	バーナードとサイモンの評価		
		10週	経営の多角化と組織構造①	職能別組織から事業部制組織へ		
		11週	経営の多角化と組織構造②	分社化、事業本部制、持株会社		
		12週	経営の国際化①	国際経営の歴史と戦略		
		13週	経営の国際化②	国際化の影響		
		14週	マーケティング	顧客の特徴、ビジネスモデル		
		15週	まとめ	まとめ		
16週						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	経済・ビジネス系分野	経営	古典的管理論について説明できる。	4	
				人間関係論について説明できる。	3	
				リーダーシップ論について説明できる。	3	
				動機付け理論について説明できる。	3	
				企業の社会的責任について説明できる。	3	
				日本的経営について説明できる。	3	
				組織の定義について説明できる。	4	
				組織均衡論について説明できる。	3	
				組織構造と組織デザインについて説明できる。	4	
				組織文化について説明できる。	3	
				組織学習と組織変革について説明できる。	3	
				組織間関係論について説明できる。	3	
				海外直接投資と日本の産業空洞化について説明できる。	4	
				多国籍企業と現地化について説明できる。	4	
技術移転と海外研究開発について説明できる。	4					
国際人的資源管理、国際経営組織について説明できる。	3					

		法律	会社の種類と社員の責任について説明できる。	3	
			株主の権利と責任について説明できる。	3	

評価割合

	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0